大会運営マニュアル

2026 年 10 月 31 日

(社)全日本空道連盟

目　次

Ⅰ．世界大会および全日本大会の運営

１．試合場 ・・ 2
２．会場のレイアウト例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
３．計量 ・・ 4
４．メディカルチェック（サポーターやテーピングの使用許可） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
５．選手係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
５．１　選手の誘導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
５．２　選手係による試合前のチェック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
５．３　セコンドによるフィストガードおよびバンテージチェック ・・・・・・・・・・・・ 10
５．４　選手紹介の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
５．５　選手登壇のための階段の移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
６．時計係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
７．掲示係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
８．アナウンス係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
９．大会ドクター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
１０．救護係（メディカルスタッフ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
１１．AED ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
１２．記録係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
１３．試合の組み合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
１４．審判団の組み合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
１５．タイムテーブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

Ⅱ．地区大会等の運営

１．試合ルール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
２．試合場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
３．審判団 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
４．計量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
５．サポーターやテーピングの使用許可 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
６．脛サポーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
７．選手係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
８．時計係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
９．アナウンス係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
１０．記録係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

Ⅲ．大会出場誓約書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

Ⅰ. 世界大会および全日本大会の運営

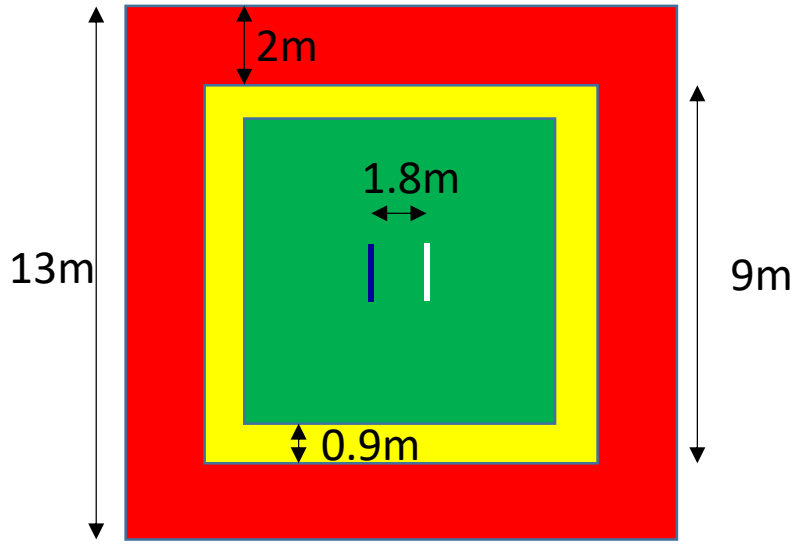
1. 試合場

（大会規則　第１章）

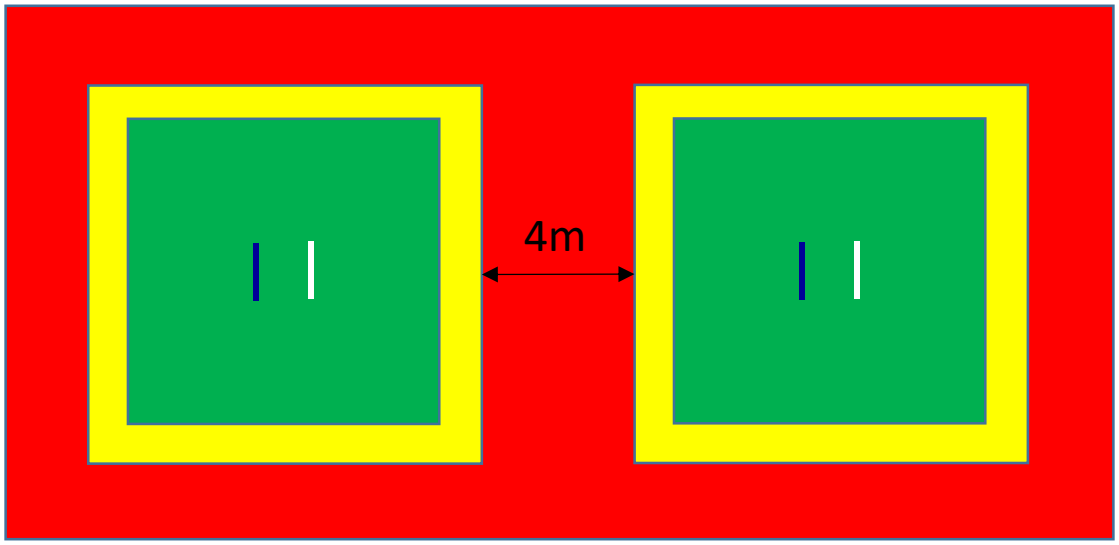
第1条　試合場は、高さ 60cm 以下とし、13m 四方の広さの中央 9m 四方を場内とし、その周囲 2m を場外とする。場外との境界に場外注意表示 90cm を設ける。試合場は、可能な限りシートで覆う。2 つ以上の隣接した試合場を設ける場合は、両試合場の間に 4mの共用の場外域が確保されなければならない。

第2条　正面から見て左手に青、右手に白の開始線を設ける。開始線の間隔は 1.8m とする。

第3条　試合場は「投げ」による攻防を考慮し、マットもしくは畳などにより、相応の弾力をもたせること。



正面

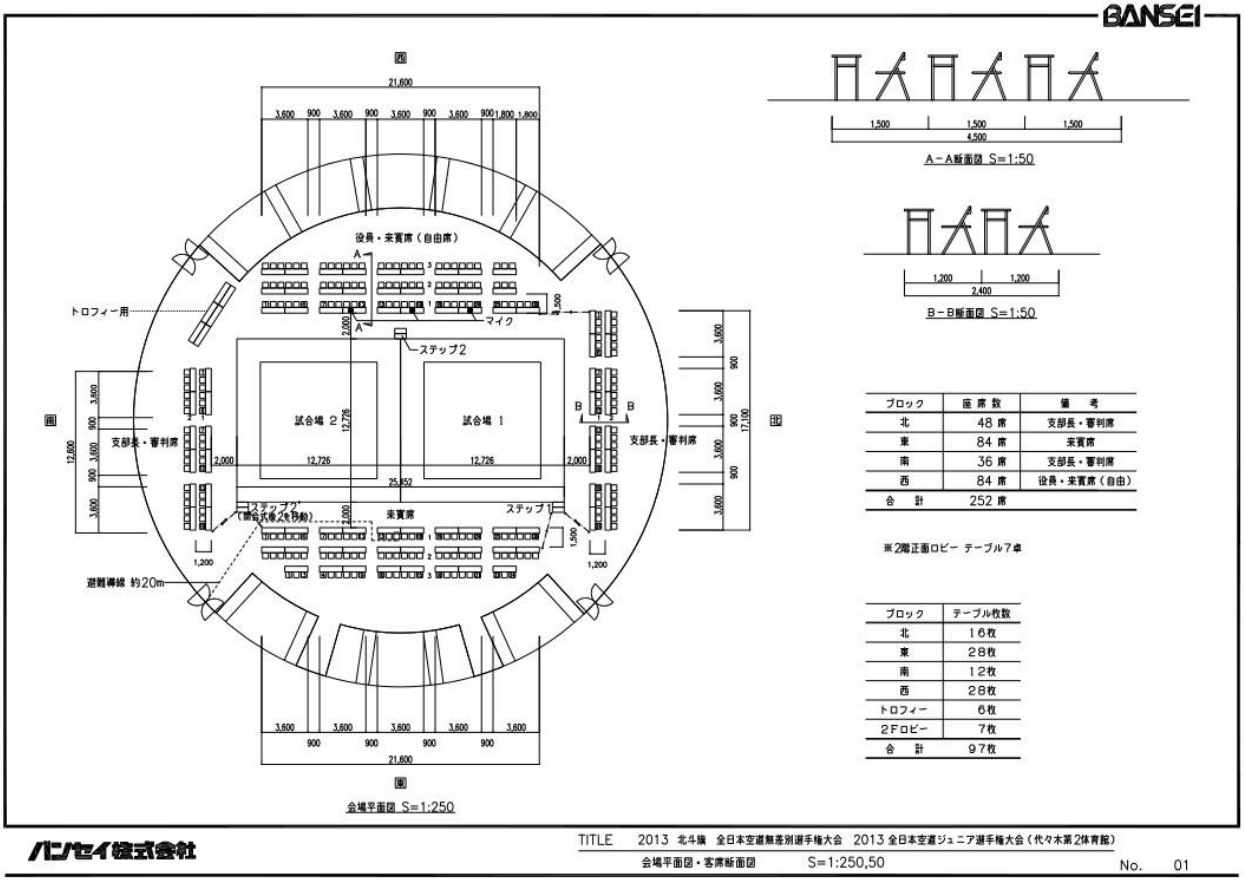


A面　　B面

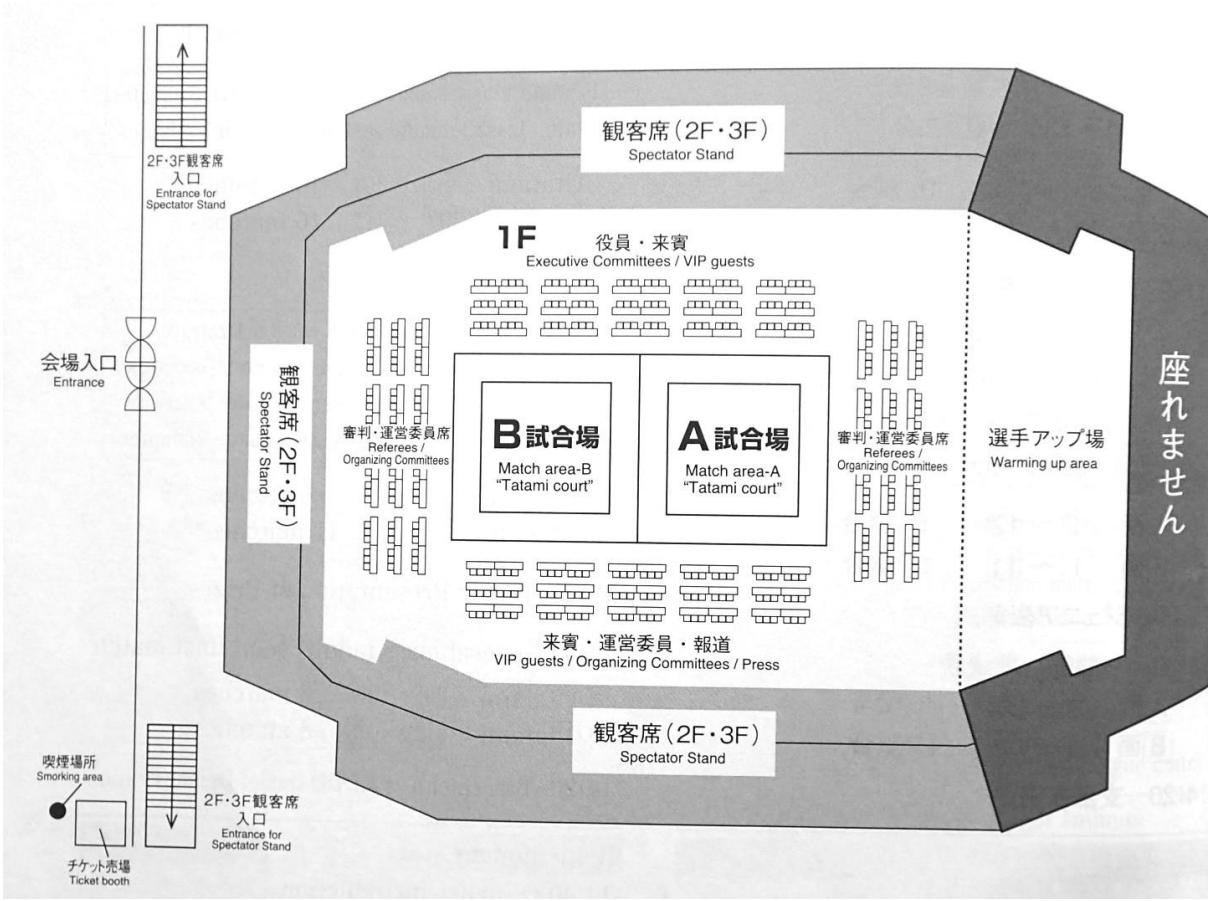
正面

2. 会場のレイアウト例

代々木第二体育館の例



愛知県体育館の例



3. 計量

公式計量は試合の前日または前々日に実施する。

① 身長

膝が見える服装で計測する。

計測係員は、背筋と膝が伸びていることを確認する。

小数点第一位まで計測可能な身長計を使用し、記録用紙には小数点第一位まで記入する。







② 体重

体重計の設置場所は、固い床、または厚みのある板の上に乗せる。

小数点第二位まで計測可能な体重計を使用の上、測定時には、小数点第二位は切り捨てる。

記録用紙には、小数点第一位まで記入する。



③ 検温（第４回世界大会以降実施）

※入館時に体温測定を行っているが、従来の定めに従って、計量時にも実施する。

異なった検温器で測定する。

・１回目：非接触体温計　37.0℃以下であれば、２回目は行わず

・２回目：１回目の簡易測定が 37.0℃を超えた場合のみ、ワキ専用体温計で詳細測定

※全員の計量が終了したのち、検温結果を大会ドクターに提出する。

大会ドクターは、必要に応じて開会式前に診断を行う。

大会ドクターの判断により、「出場不可」とすることもあり。

④ 計量結果記録ファイル

カテゴリー	ゼッケン番号	氏名	国籍	申告値			計測値			差異	体温計測値		
				身長(cm)	体重(kg)	PI	身長(cm)	体重(kg)	PI		1回目	2回目	3回目
-230	301	Suehiro Tomoaki	Japan	167.0	62.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	302	Tanii Shota	Japan	168.0	61.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	303	Nakanura Tomohiro	Japan	169.0	60.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	304	Meguro Yuta	Japan	166.7	63.0	229.7			0.0	-229.7			
-230	305	ILIYA GEORGIEV	Bulgaria	165.0	64.5	229.5			0.0	-229.5			
-230	306	RAUL FARIAS	Chile	169.0	60.0	229.0			0.0	-229.0			
-230	307	DAVID ABBELAN CAMPILLOS	Spain	163.0	66.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	308	BRUCE KHOBUNTHIEN	France	164.0	64.0	228.0			0.0	-228.0			
-230	309	HOSSEIN DEHGHANI YAZDELI	Iran	170.0	59.0	229.0			0.0	-229.0			
-230	310	RUSTAM YERMANOV	Kazakhstan	160.0	63.0	223.0			0.0	-223.0			
-230	311	SUNG BUM BAE	South Korea	158.0	71.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	312	NESTOR SIDIKY KAMARA ARTEAGA	Mexico	159.0	70.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	313	BILGUUN BYAMBAA	Mongolia	170.0	59.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	314	SHAUKAT ISHPULATOV	Russia	164.0	64.9	228.9			0.0	-228.9			
-230	315	EDGAR KOLYAN	Russia	159.0	70.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	316	BEKHZOD NORMURATOV	Tajikistan	168.0	57.0	225.0			0.0	-225.0			
-230	317	ERNEST MURADASYLOV	Ukraine	167.0	62.8	229.8			0.0	-229.8			
-230	319	POLY TEJERINA FRIAS	Bolivia	170.0	59.9	229.9			0.0	-229.9			
-230	320	MOHAMED SAFDAR ALI MOHIDEEN	Sri Lanka	166.0	62.0	228.0			0.0	-228.0			
						0.0			0.0	0.0			

※計量時に身体指数が申告値より

・１未満高い場合は「警告」

・１以上２未満高い場合は「反則１」（相手に１ポイント）

・２以上３未満高い場合は「反則２」（相手に２ポイント）

・３以上高い場合は、「反則３」として「失格」

4. メディカルチェック（サポーターやテーピングの使用許可）

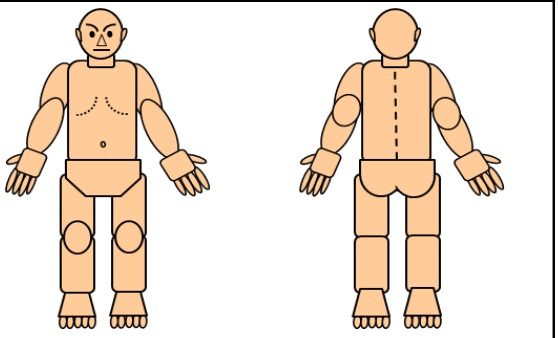
① サポーターを使用する場合は、事前に診断書をメディカルスタッフに提出し、使用許可を得ること。
When you use supporter(s), you must submit the medical certificate and obtain permission from the medical staff in advance.

② テーピング等を使用する場合は、メディカルスタッフによる処置を受けること。
When you use taping etc., make sure that the medical staff puts the taping on you. (No other persons can put the taping on you except for the medical staff.)

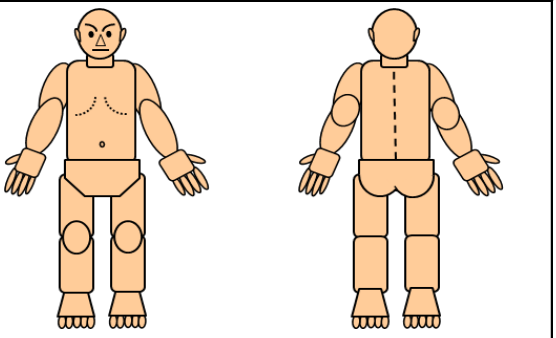
③ 許可証の左半分を選手またはセコンドが常に携帯し、試合前に選手係と担当審判員に提示すること。
Seconds or competitors must carry the left half of the medical treatment permission at all time. Show the permission to the competitor's assistant and the referee in charge before the match.

※ 治療許可証の発行を希望する選手は、試合開始の 1 時間前までにメディカルスタッフから許可証を発行してもらうこと。試合中の怪我などにより追加発行してもらう場合は、その都度、新しい許可証を発行してもらうこと。用紙は、メディカルスタッフのところにある。
The medical staff will be in the first aid room located on the Competition floor (1st floor), for both 15th and 16th November. Any competitors who need the "medical treatment permission", they must ask the medical staff to issue the "medical treatment permission" 1 hour prior to the match. When competitors need an additional "medical treatment permission" in case of injury which may occur during the match, competitors need to ask the medical staff to issue a new "medical treatment permission" for each case. You will find the document at the tournament the first aid room for the permission.

Sample of the Medical Treatment Permission

治療許可証 Medical Treatment Permission 空道世界選手権 KUDO WORLD CHAMPIONSHIPS			
番号 Number	階級 Class	氏名 Name	
100	−260	TAKASHI AZUMA	
国名 Country			
Japan			
○:ﾁｪｯｸﾏｰｸ(Check mark) color MARK			
ﾃｰﾌﾋﾟﾝｸﾞ:○ Taping	ｻﾎﾟｰﾀ:○ Supporter	包帯:○ Bandage	その他:◎記述 Others
			
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾀｯﾌ署名 Medical Staff Signture			
出場許可 Participation Permission	可 OK		不可 Not OK

※サポーターを使用する場合は、事前に診断書をメディカルスタッフに提出し、 使用許可を得ること。
When you use supporter(s), you must submit the medical certificate and obtain permission from the medical staff in advance.
※テーピング等を使用する場合は、メディカルスタッフによる処置を受けること。
When you use taping, make sure that the medical staff puts the taping on you. (No other persons can put the taping on you except for the medical staff.)
※本許可証の左半分を選手またはセコンドが常に携帯し、試合前に選手係と担当審判員に提示すること。
Seconds or competitors must carry the left half of the medical treatment permission at all time. Show the permission to the competitor's assistant and the referee in charge before the match.

治療許可証 Medical Treatment Permission 空道世界選手権 KUDO WORLD CHAMPIONSHIPS			
番号 Number	階級 Class	氏名 Name	
100	−260	TAKASHI AZUMA	
国名 Country			
Japan			
○:ﾁｪｯｸﾏｰｸ(Check mark) color MARK			
ﾃｰﾌﾋﾟﾝｸﾞ:○ Taping	ｻﾎﾟｰﾀ:○ Supporter	包帯:○ Bandage	その他:◎記述 Others
			
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾀｯﾌ署名 Medical Staff Signture			
出場許可 Participation Permission	可 OK		不可 Not OK

※サポーターを使用する場合は、事前に診断書をメディカルスタッフに提出し、 使用許可を得ること。
When you use supporter(s), you must submit the medical certificate and obtain permission from the medical staff in advance.
※テーピング等を使用する場合は、メディカルスタッフによる処置を受けること。
When you use taping, make sure that the medical staff puts the taping on you. (No other persons can put the taping on you except for the medical staff.)
※本許可証の左半分を選手またはセコンドが常に携帯し、試合前に選手係と担当審判員に提示すること。
Seconds or competitors must carry the left half of the medical treatment permission at all time. Show the permission to the competitor's assistant and the referee in charge before the match.

※　「②テーピング等を使用する場合は、メディカルスタッフによる処置を受けること。」について
メディカルスタッフが救護対応で多忙な場合は、メディカルスタッフの指示の下、救護室で以下の処置を審判員が担当する。

- 選手の求めに応じて、テーピングの処置（基本的にはメディカルスタッフが対応する）
- 選手が処置し確認を求めてきたテーピングの承認
  例：指の負傷箇所のテーピング、手首や足首等の負傷箇所のテーピング（これによって固めることは禁止）、バンテージを固定するためにテーピングを用いる場合は２巻き程度まで
- 上記事項の、前頁治療許可証への記入
  （許可証の左右にテーピング許可箇所を黒字で〇印し、メディカルスタッフに提出）

5. 選手係

5．１ 選手の誘導

２試合先までの選手を確認しておき、試合場の脇の指定の位置で待機させる。
（選手の棄権等で試合が繰り上がることがあるので、大会本部と密に連携を取る必要がある）

5．２ 選手係による試合前のチェック

① ゼッケン番号および道着の青／白の確認
（大会プログラムの順位で上の者が「青」となり、下のものが「白」となる）

② 道着の袖および裾の長さの確認
（袖は肘が隠れる長さであること、裾はくるぶしから 5cm 前後の長さであること）

③ マウスピース着用の確認
マウスピースを着用しない選手がいた場合は、主審に連絡する。
使用を拒否する場合は「反則１」、その上で口からの出血があった場合は即「失格」。

④ マスクの紐が２箇所で結ばれていることの確認

⑤ ファールカップの着用（道着の下）の確認

⑥ サポーターやテーピングなど、規定外のものの着用の有無の確認
規定外のものを着用する場合は、大会ドクターによる「治療許可証」の提示が必要。
（半券を選手またはセコンドが携帯、残る半券を大会本部を通して担当審判が保有）
選手係および担当審判は、使用許可のないテーピング等を切ることができる。

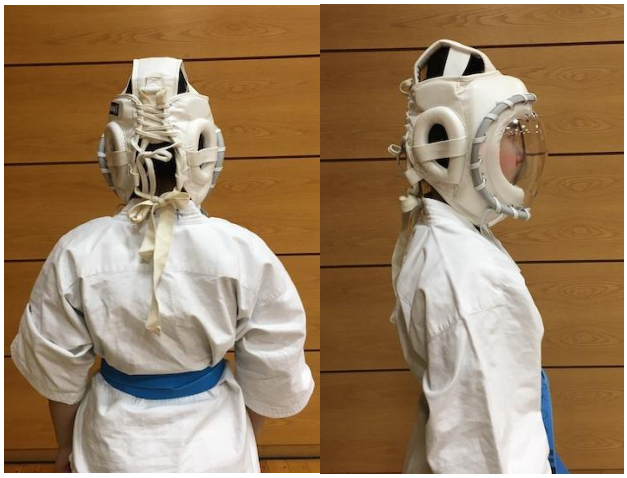
⑦ 帯留めを装着していることの確認

⑧ 長髪の選手は髪を柔らかな素材のもので纏め、マスク外に大きくはみ出ていないことの確認

⑨ シニア、マスターズの選手については、膝サポーター着用も義務付けられている。

※以上の項目で不適切な点があれば、登壇前に是正させる
※⑧に関する具体的なチェック基準は、以下のとおり
・マスクの形状が大きく変化してはならない。
・髪が襟につかないようにしなければならない。
・違反例と模範例を、次に画像で示す。

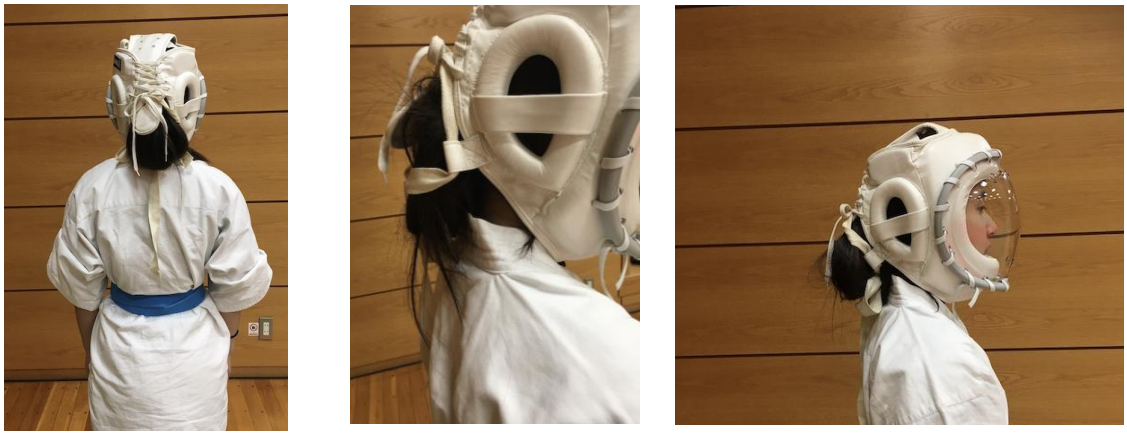
違反例１：マスクの外に髪が出ていないが、マスク頭頂部が大きく盛り上がっている。



違反例２：奥襟にかかっている。



違反例３：髪が腰までの長さの選手で、髪をまとめる努力はしているが、マスクから髪が出ている。



違反例４：二つ結びをしており、奥襟にかかっている。



違反例５：奥襟にかかっていないが、上から出ている。

上からどの程度はみ出すことまでを許容できるかの基準を設定するのが困難なため、違反とする。




模範例：

次のような長髪の選手であっても、工夫することで、違反しないように髪をマスクに納めることが可能。





5．3 セコンドによるフィストガードおよびバンテージチェック

① 一試合前に選手待機場所で、相手側セコンドがフィストガード、バンテージが指定のものであるかを確認

② 相手選手のフィストガード、バンテージが、全日本空道連盟の指定するものである事を確認
それ以外のフィストガード、バンテージの使用は一切許可しない

③ 相手選手のバンテージの中に、いかなる物体も巻き込まれていないことを確認

【規定外の使用物の例】



※ これらの確認等の結果、不適合事項があり、選手の登壇が遅れることは違反行為

④ 相手選手のバンテージが、水等で湿らせたり、テーピング等で拳を固めたりされていないかを確認
テーピングはバンテージを固定するために手首に二巻き程度巻く以外の使用は禁止

⑤ テーピングテープが、医療用のホワイトテープ、伸縮性テープであるかの確認
工業用は不可

⑥ 選手係および担当審判は、相手側セコンドの要請により公認外のバンテージを外すまたは切ることができる。

※上記のフィストガードおよびバンテージのチェックには、公式審判員が立ち会う。

5．4 選手紹介の準備

準決勝終了後（全日本無差別は準々決勝終了後）、各クラスの決勝戦前には決勝進出者の紹介が行われるので、選手を待機させておく。

5．5 選手登壇のための階段の移動

選手が登壇したら、万が一選手が落下した際に怪我を防止するため、一旦階段を試合場から離す。試合が終了し選手の下壇時に、再度設置する。

6. 時計係

① 時計係の構成

「時計係」は試合毎に試合全体の時間を計測する「計時係」と、掴みの攻防や寝技の攻防の時間を計測する「副計時係」の２人で構成される。

② 大会ドクターが所定の席にいることの確認

時計係は、各試合の開始前に、大会ドクターが所定の位置に着いていることを確認し、もし不在の場合は、その旨を監査役を通して主審に伝え、試合の開始を停止する。したがって、その間は計時を開始しない。

③ 選手呼出後に選手が試合場に現れない場合

主審からの指示後、計時開始。

即警告、30 秒経過後に「反則１」、40 秒経過後に「反則２」、50 秒経過で「失格」（アナウンスはアナウンス係）

④ 試合時間

- 準決勝（全日本無差別のみ準々決勝以前）までは「本戦」３分のみ。ただし主審の判断で４－０以外は「延長」を３分間できる。
- 決勝（全日本無差別では準々決勝以降）では「本戦」で両者共に２ポイント以上のポイントがなければ判定を待たず「延長」になりうる。ただしジュニアは自動延長なし。
- 「延長」では同じく４－０以外は主審の判断で「再延長」（３分間）にできる。ただしジュニアは再延長なし。

参考：一般部以外の試合時間

Ｕ１１、１４：「本戦」１分 30 秒、「延長」１分。

Ｕ１６：「本戦」２分、「延長」１分 30 秒。寝技は本戦、延長に一回ずつ（各々30 秒）。

Ｕ１８：「本戦」３分、「延長」２分。寝技は本戦二回、延長に一回（各々30 秒）。

シニア：「本戦」２分、「延長」１分 30 秒。寝技は本戦、延長に一回ずつ（各々30 秒）。

マスターズ：「本戦」３分、「延長」１分 30 秒。寝技は本戦二回、延長に一回（各々30 秒）。

⑤ 試合時間の計測

- 「計時係」は原則として主審の「始め」の合図から３分間、もしくは主審から「時間ストップ（待て）」合図があるまでは継続して計時。
- 単なる場外やスリップダウン、組み技での膠着状態、規定回数以上の寝技に対する「止め」「待て」の合図では時計を止めない。
- 但し主審が試合を中断した後に（主審が選手の道着や帯を直すなど）５秒以上経過しても試合続行されない場合には時計を止める。

⑥ 掴みの攻防とその時間の計測

- 時間：本戦、延長共に 10 秒を無制限回数
- 計測：主審が「掴み」とコールした時点から計測開始。10 秒経過したら、「掴み、時間です」と主審に伝える。

⑦ 寝技技の攻防とその時間の計測

- 時間：本戦、延長共に各３０秒２回まで（Ｕ１８の延長および、シニア、Ｕ１６は１回）。
- 計測：時計係は主審が「計時」とコールした時点から計測開始。
  - 計測開始後５秒が経過した時点で寝技の攻防が正式に成立するので、「５秒経過です」と主審に伝える。これに対し主審は「寝技１（２）」とコールして寝技の攻防１回を認める。
  - ５秒以前に解けた場合には寝技の回数に含めない。主審が「寝技１（２）」とコールして 25 秒（計 30 秒）経過したら、「寝技、時間です」と主審に伝える。
    （このタイムアップは場内アナウンスを通じるか、副審とは別の音色の笛を用いるとよい。）

- 一方の選手が足裏以外の体の一部を畳（マット）につく態勢を取って、立位の相手を掴みつつ攻撃する場合は、立位の選手には（後手からの）打撃が認められる。この時間は寝技の時間として計時する。

⑧ タイムアップ

[計時係]はタイムアップの５秒前から頭上に指をかざしてカウントダウンし、「０」のタイミングで試合終了のブザーが鳴るようにする。

（ 熱戦時には選手、審判とも気づかない事ことがあるので、その際は「試合終了です」とコールする。）

⑨ 試合中の出血等による治療で試合が中断される場合

治療開始（ドクターが選手に触れた）時点から試合再開（マスクの装着終了まで）を「治療時間」として計時する。

- 「治療時間」が２分経過時点で、「警告」
- ２分１０秒「反則１」（相手に１ポイント）
- ２分２０秒経過時点で「反則２」（相手に２ポイント）
- ２分３０秒経過時点で、「反則３」として「失格」を宣言される

7. 掲示係

① 掲示方法

- 試合中、「 主審 」の判定に基づいて、得点板を、「効果」、「有効」、「技あり」、及び「反則」の数字をめくる。（青と白の点数を間違えないように）
- １試合終わったら得点板の表示を元に戻す。（ 前試合の表示の戻し忘れに注意 ）

②「違反行為」について

- １回目が「警告」。
- ２回目で「反則１」となり、相手方に「１ポイント」が与えられる。
- ３回目で「反則２」となり、相手方に「２ポイント」が与えられる。
- ４回目で「反則３」となり、「失格」となる。相手方に「４ポイント」が与えられる。

※ 「違反行為」の程度や、選手の態度により、一回目の「違反行為」から「警告」ではなく「反則１」となる場合があるので、「 主審 」の判定を聞き漏らさないように。

※ さらに、違反行為が特に悪質、または違反行為によるダメージが特に大きい場合、審判長及び副審判長が違反行為の程度を判断し、違反行為を犯した選手に「反則２」（相手に２ポイント）もしくは「反則３」（相手に４ポイント）が宣告される場合があり、「反則３」を宣告された選手は「失格」負けとなる。

③ ポイントの掲示について

「引き分け」となり、「延長戦」に突入した場合でも、「 本戦 」での「ポイント」や「反則 」はそのまま残して加算して行く。

（仮に「本戦」で「警告」があり、「延長」でさらに１回「違反行為」を重ねてしまった場合には、「違反行為」２回目となり「反則１」（＝相手方に「１ポイント」）となる。

得点板の表示例

例 1

HON 本戦	WHITE POINT	BLUE POINT
W 技 ／	0	0
Y 有 ―	4	0
K 効 ＼	0	3
H 反	●●	
TOTAL	4	5

白の違反行為 3 回（反則 2）により青の効果に 2P 与えられる

白が違反行為 3 回⇒反則 2

白は有効 2 回で 4 ポイント、青は効果 3 ポイント。
しかし白の違反行為 3 回（反則 2）により青の効果に 2 ポイント加算される。
依って青は合計 5 ポイントで、青の効果優勢勝ち。

⚠ 違反行為 1 回 = 警告
● 違反行為 2 回 = 反則 1・・・相手の効果に 1P 加算
●● 違反行為 3 回 = 反則 2・・・相手の効果に 2P 加算

例 2

HON 本戦	WHITE POINT	BLUE POINT
W 技 ／	0	0
Y 有 ―	2	0
K 効 ＼	2	4
H 反	0	0
TOTAL	4	4

白は有効 1 回で 2 ポイント、さらに効果 2 回で 2 ポイント、合計 4 ポイント。
青は効果 4 回で、合計 4 ポイント。
この様に同点なら、ビッグポイント（有効＞効果）のある白の勝ち。
（従来も上位ポイントである有効を持ってる白の勝ち）
但し、青が効果 5 回で 5 ポイントを取っていれば、ポイントの多い青の勝ち。

8. アナウンス係

① 審判団及び選手の紹介

- 審判団の呼び出し

「Aコート（Bコート）第□試合から第△試合までの審判団をご紹介いたします。

主審××、副主審〇〇、副審☆☆、★★、◎◎の、各審判員です。」

※　一人一人に敬称は付けない。

※　副審全員が席についてから選手の呼び出しを行う。

- 選手の呼び出し

「Aコート（Bコート）、××級〇回戦第■試合の選手をご紹介いたします。

青、〇〇選手、△△支部、■級（段）

白、◎◎選手、▲▲支部、□級（段）」

※　進行の都合上、準決勝までは名字のみで可能。（臨機応変に対応）

※　組み合わせ表の順番で先の者が「青」、後の者が「白」となる。

（補足）身長＋体重=体力指数

①２３０以下クラス　②２４０以下クラス　③２５０以下クラス　④２６０以下クラス　⑤２６０超クラス

※　世界大会では　⑤２７０以下クラス　⑥２７０超クラス

- 体力指数差がある場合
  - ２０以上

「この試合は体力指数の差が２０以上ありますので、双方に蹴り技での金的攻撃が認められます。

ただし掴んでのパンチ、肘打ち、頭突きなど一切の打撃は認められません。」

  - ３０以上

「この試合は体力指数の差が３０以上ありますので、双方に手技と蹴り技での金的攻撃が認められます。

ただし掴んでのパンチ、肘打ち、頭突きおよび蹴りなどの攻撃は一切認められません。」

- 不戦勝ちのとき

「青（白）、〇〇選手の棄権（欠場）により、白（青）、◎◎選手の不戦勝ちです。」

※　進行の都合上礼法無しで進む場合は「･･･の不戦勝ちです。次に進みます。」とアナウンス

- 試合開始時に注意がある場合（いずれの場合も主審の判断に従いアナウンスする）
  - 選手呼び出し後、試合会場に現れない場合は主審より「警告」が宣言される。

「青(白)、〇〇選手は呼出し後試合会場に現れなかったため「警告」が課された状態で試合開始となります。」

※　対戦者が呼出し後試合場に現れない場合は遅延行為と見做され、即「警告」。以降30秒経過後に「反則１」、40秒経過後に「反則２」となり、50秒経過で「失格」となる

  - 計量にて規定オーバーした選手は

「青（白）、〇〇選手は先ほどの計量にて規定体重をオーバーしたため「△△△」が課された状態で試合開始となります。」

※　計量時に身体指数が申告値より

・１未満高い場合は「警告」

・１以上２未満高い場合は「反則１」（相手に１ポイント）

・２以上３未満高い場合は「反則２」（相手に２ポイント）

・３以上高い場合は、「反則３」として「失格」

② ポイントがあったとき（省略可）

「◎◎選手、××（技の名前）により『効果１』を取りました。」

「〇〇選手、××（技の名前）により『有効１』を取りました。」

「△△選手、××（技の名前）により『技あり』を取りました。」

「□□選手、××（技の名前）により『一本勝ち』です。」

③ 違反行為のとき（省略可）

「〇〇選手、××（技の名前）により『違反行為』で『警告』を取られました。」

（１回目が「警告」、２回目が「反則１」、（相手方に１ポイント）、３回目で減点（相手方に有効１）となり、４回目で「失格」となる）

④ タイムアップ

「A コート（Ｂコート）時間です！」　　※時計係が行う場合あり（要打ち合わせ）

【注意】

空道ルールの場合、３分間の本戦において２回、それぞれ３０秒間の寝技による攻防が認められる。

２コートで大会を行う場合、他コートの計時等が混乱しないよう、寝技のタイムアップと本戦のタイムアップについてどのように役割分担するか、予め自分のコートの計時係りと事前に打ち合わせを行うこと。

（例：「Aコート（Ｂコート）寝技、時間です」は時計係が言い、本戦終了はアナウンス係が言う、など）

⑤ 判定　※原則は主審のコールに従う

- 審判団による旗判定となった場合

  「青（白）、◎◎選手（技名）の判定勝ちです。」

- 本戦（および延長戦）でのポイントがある場合

  「◎◎選手（技名）の有効優勢勝ちです。」

  「◎◎選手（技名）の効果優勢勝ちです。」

  「◎◎選手（技名）の技あり優勢勝ちです。」

  「◎◎選手（技名）の一本勝ちです。」

  「◎◎選手（技名「技あり」、技名「技あり」）の合わせ一本勝ちです。」

《延長戦について》　ルールブック参照！

■準決勝まで（全日本無差別はベスト８以前）

「本戦」３分のみ。主審の判断でさらに３分間の延長戦となる。

（主審の判定が引き分けの場合）

「引き分けにつき３０秒間のインターバルの後、３分間の延長戦を行います。」

■決勝戦（全日本無差別はベスト８以後）

□本戦で決定ポイントが無く判定が引き分けの場合、または0-0、1-1 の場合

「延長戦となります。３０秒間のインターバルの後、３分間の延長戦を行います。」

延長戦後、審判団の判断でさらに３分間の再延長戦となる場合もある。

＜参考:試合時間＞

Ｕ１１、１４：「本戦」1分30秒、「延長」1分。

Ｕ１６：「本戦」2分、「延長」1分30秒。寝技は本戦、延長に一回ずつ（各々30秒）。

Ｕ１８：「本戦」3分、「延長」2分。寝技は本戦二回、延長に一回（各々30秒）。

シニア：「本戦」2分、「延長」1分30秒。寝技は本戦、延長に一回ずつ（各々30秒）。

マスターズ：「本戦」3分、「延長」1分30秒。寝技は本戦二回、延長に一回（各々30秒）。

一般部：「本戦」「延長」共3分。寝技は本戦、延長に二回ずつ（各々30秒）。

⑥ 審判団の交替

- 主審のみの交替

  「ここで主審の交替を行います。主審「◎◎審判員」に替わりまして「△△審判員」お願いいたします。」
- 主審と副主審の交替

  「ここで主審と副主審の交替を行います。」
- 審判団の交替

  「ここで審判団の交替を行います。」（旧審判団が退出後、新しい審判団の紹介）

⑦ その他

- アクシデントによる試合中断の場合

  「Aコート（Bコート）□□□のため現在試合を中断しています。再開まで今しばらくお待ちください。」
- 怪我・出血

  「Aコート（Bコート）青（白）◎◎選手、治療のため現在試合を中断しています。再開まで今しばらくお待ちください。」

  ※　試合中の出血等による治療で試合が中断される場合
  - 「治療時間」が２分経過時点で、「警告」
  - ２分１０秒「反則１」（相手に１ポイント）
  - ２分２０秒経過時点で「反則２」（相手に２ポイント）
  - ２分３０秒経過時点で、「反則３」として「失格」を宣言される

  注）　治療開始（ドクターが選手に触れた）時点から試合再開（マスクの装着終了まで）を「治療時間」として計時する。

9. 大会ドクター

※大会ドクターの位置は、最前列とする。（大会本部が確認）

※大会ドクターが席を離れている場合は、試合を開始・継続しない。（計時係が確認）

（大会規則　第七章）

第 57 条　試合場毎に、１名以上の大会ドクターを置く。

第 58 条　試合者が頭部もしくは背部（脊柱）に強烈な衝撃を受けたとき、または主審が重大な負傷が起こったと判断したとき、主審は大会ドクターを呼ぶ。いずれの場合においても、大会ドクターはできるだけ短時間に試合者の診察を行い、主審に試合が続行できるか否かを告げる。

第 59 条　出血があった場合、安全面の見地から、主審は大会ドクターを呼ぶ。出血している間は試合を行うことはできない。

第 60 条　大会ドクターを呼ぶ権限は、主審の他にも、監査役および副主審がもつ。

・大会運営側が救急箱およびストレッチャーを用意する。

10. 救護係（メディカルスタッフ）

① 試合場から降壇後の怪我の治療は、メディカルスタッフ（救護係）が担当する。

② メディカルスタッフは、４．に記載したメディカルチェックも担当する。

11. AED

① 大会会場に、少なくとも１台の AED を用意する。

② または、大会会場施設内に AED がある場合は、その場所を確認の上で、必要な場合は速やかに利用できるようにする。

12. 記録係

① 正式な記録法

（記号の意味）・は「 効 果 」　　例　・「右ス中」 ……　右ストレート中段で「効果」 の意味

○ は「 有 効 」　　例　○「左フ上」 ……　左フック上段で「有効」 の意味

● は「 技あり 」　　例　●「左下」 ……　左下段回し蹴りで「技有り」 の意味

◎ は「 一 本 」　　例　◎「右前中」 ……　右前蹴り 中段で 「一本」 の意味

（記入例） 赤　　3



白　　③

●右ス中

↓　　↓

本戦3対3で引き分け「延長」へ　　延長で「右ストレート中段技有り」の意

副審3人（3点）が青、で主審（2点）と副審1人（1点）が白

（○がついている方に主審が加わっている）

② 記号

同じ技が始め「効果」なら点（・）をつけるだけ

↓

そのまま「有効」になったら点を丸にする　○

↓

そのまま「技有り」になったら丸を黒くつぶす　●

↓

そのまま「一本」になったらその回りに丸をつけて◎とする

また違う技なら別々に

「・　右中　」や　「○　左下　」　等などとする。

③ 順位の認定

3位以下の順位は、全試合の取得ポイントの合計を試合数（不戦勝を含む）で割った数値の多い順に上位入賞となる。

この数値が同じ場合は、以下の順で上位とする。

A) ビッグポイントを取得している側が上位

B) それでも同じ場合は、犯している「反則」の数が少ない側が上位

C) それでも同じ場合は、受けた「警告」の数が少ない側が上位

D) それでも同じ場合は、延長戦を試合数としてカウントし、延長戦が少ない側が上位

E) それでも同じ場合は、身体指数の公式計量値が少ない側が上位

④ その他

試合開始前に、以下の情報を、監査役を通して主審に伝える。

●各選手の前試合までの累積の被取得ポイント数とその内訳（技有り、有効など）

●身体指数差（無差別大会の場合は全試合で、体力別大会の場合は最も大きなクラスで）

⑤ 公式記録表

2019北斗旗全日本空道無差別選手権大会
2019全日本空道ジュニア選手権大会

2019.11.09

試合時間	◇U13 ； 1分30秒・延長1分
	◇U16 ； 2分・延長1分30秒
	◇U19 ； 3分・延長2分
	◇一般部女子 ： 2分・延長2分／決勝のみ再延長あり
	◇一般部男子 ； 3分・延長3分／決勝のみ再延長あり
記録者：	←― 記録者氏名を必ず書く

※コートが変更になった場合変更元のコートの記録は不要。

※変更先のコートでは「コート変更の為〇コート△試合の記録」と必ず記載してから記録を付ける。

＜ B 試合場 ＞ 試合番号を必ず入れる 不戦勝の場合も必ず記載。

第 試合目 回戦 準決勝戦 決勝戦

対戦時間	分 秒	延 長	分 秒
主 審：	① 青 ／ 白	副 審：	③ 青 ／ 白
副主審：	② 青 ／ 白	副 審：	④ 青 ／ 白
		副 審：	⑥ 青 ／ 白

審判名記載・旗の色に〇を付ける

試合の経過 （一本＝◎、技あり＝●、有効＝〇、効果＝・ ）

青		白	
名前	←選手名	名前	←選手名
身体指数		身体指数	
試合前累積被ポイント数	技有り： 有効： 効果：	試合前累積被ポイント数	技有り： 有効： 効果：
時間	決まり技（記号・技の名前）	時間	決まり技（記号・技の名前）

身体指数を記載し、監査役に伝える

決まり技を記載する

前試合までの累積被ポイント数を記載し、監査役に伝える
1試合目の場合は、ゼロ

※審判組合せに入っている審判団名前の前に在るNoを入れてください。
※審判団もしくは審判員が変わったときのみ番号と合わせ名前も記載。
※同じ審判団の組合せの場合、2枚目以降は番号のみ記載
※審判員が変わった場合、その審判員の名前も記載。

延 長 （再延長 ※決勝のみ）

主審：青 ／ 白 副主審：青 ／ 白 副審：青 ／ 白 副審：青 ／ 白 副審：青 ／ 白

青		白	
時間	決まり技（記号・技の名前）	時間	決まり技（記号・技の名前）
試合後累積被ポイント数	技有り： 有効： 効果：	試合後累積被ポイント数	技有り： 有効： 効果：

旗が上がった時は必ず〇

「前試合までの累積被ポイント数」に、本試合での被ポイント数を加算して記載する
反則によるポイント数は記載しなくてよい
本試合の勝者は、次の試合の際に「前試合までの累積ポイント数」欄に記録

13. 試合の組み合わせ表示

ジュニア、シニアの試合の組み合わせ表においては、以下の記述を添える。

U11、１４：

●試合時間：１分30秒・延長１分　●掴み：３秒以内　●投げ：あり（タックルと５種の投げ【足払い、大内刈り、小外刈り、小内刈り、支え釣り込み足】

※　決勝戦でも自動延長はなし

●寝技：なし　●掴む掴まないに関わらず、中・下段の加撃は全て可（※1）、上段への加撃（※2）は回し蹴りのみ可　●連続での攻防は10秒以内

●1ダウン（有効1）で試合終了（効果２以上の累積は可）、当該試合中の累積５ポイントで試合終了

●ポイント：空道ルールに準ずる（「効果」：１ポイント、「有効」：２ポイント、「技有り」：４ポイント、「一本４」：８ポイント）

※1　連続的な下段蹴りと頭突き、金的攻撃は不可（身体指数によるルール変更の適用なし）

※2　加撃とは、打撃（頭突き・パンチ・掌底・肘・BH）、及び、全ての蹴りを意味する

U16：

●試合時間：２分・延長１分30秒　●掴み：５秒以内　●投げ：あり（タックルと５種の投げ【足払い、大内刈り、小外刈り、小内刈り、支え釣り込み足】

※　決勝戦でも自動延長はなし

●寝技：あり（許される関節技は、「腕ひしぎ（十字固め、膝固め、脇固め、腕固め、腹固め）、腕がらみ、アキレス腱固め、膝十字固め」の８種類、許される絞め技は、「裸絞め、十字絞め、送り襟絞め、片羽絞め、三角絞め」の５種類に限定）

●掴む掴まないに関わらず、中・下段の加撃は全て可（※1）、上段への加撃（※2）は回し蹴りのみ可　●連続での攻防は10秒以内

●1ダウン（有効1）で試合終了（効果２以上の累積は可）、当該試合中の累積５ポイントで試合終了

●ポイント：空道ルールに準ずる（「効果」：１ポイント、「有効」：２ポイント、「技有り」：４ポイント、「一本４」：８ポイント）

※1　連続的な下段蹴りと頭突き、金的攻撃は不可（身体指数によるルール変更の適用なし）

※2　加撃とは、打撃（頭突き・パンチ・掌底・肘・BH）、及び、全ての蹴りを意味する

U18：

●試合時間：３分・延長２分　●掴み：10秒以内　●投げ：あり　　※　決勝戦でも自動延長はなし

●寝技：あり（２回）、延長は１回

●上段への打撃は、肘打ちと頭突きを禁止（掴んでの打撃も同様）、立ち技での連続的な上段への打撃は、４～５連打まで

●1ダウン（有効1）で試合終了（効果２以上の累積は可）、当該試合中の累積５ポイントで試合終了

●ポイント：空道ルールに準ずる（「効果」：１ポイント、「有効」：２ポイント、「技有り」：４ポイント、「一本４」：８ポイント）

※　金的攻撃は不可（身体指数によるルール変更の適用なし）

シニア【身長+体重-年齢=シニア指数】：35歳以上で北斗旗、全日本空道選手権に参加経験のない者

●試合時間：２分・延長１分30秒　●掴み：10秒以内　●投げ：あり　●寝技：あり（１回）　※　決勝戦でも自動延長はなし

●1ダウン（有効1）で試合終了（効果２以上の累積は可）、当該試合中の累積５ポイントで試合終了

●その他：空道ルールに準ずる(※)

●ポイント：空道ルールに準ずる（「効果」：１ポイント、「有効」：２ポイント、「技有り」：４ポイント、「一本４」：８ポイント）

マスターズ【身長+体重-年齢=シニア指数】：35歳以上で北斗旗、全日本空道選手権に参加経験のある者

●試合時間：３分・延長１分30秒　●掴み：10秒以内　●投げ：あり　●寝技：あり（２回）、延長は１回　※　決勝戦でも自動延長はなし

●1ダウン（有効1）で試合終了（効果２以上の累積は可）、当該試合中の累積５ポイントで試合終了

●その他：空道ルールに準ずる(※)

●ポイント：空道ルールに準ずる（「効果」：１ポイント、「有効」：２ポイント、「技有り」：４ポイント、「一本４」：８ポイント）

１４．審判団の組み合わせ

・４試合以上を連続して担当する場合は、主審と副主審は、交代で務める。

・連続して主審を務めるのは、3～４試合までとする。

・審判ライセンスと権能は、以下の表のとおり。【以下の表に変更】

資格	権能						段位	その他の要件
	世界大会	World Cup	大陸大会	国際大会	各国内大会	その他（地区大会）		
S	監査 主審 副審	〃	〃	〃	〃	〃	三段以上	A級取得後 4年以上の経験
A	副審	〃	監査 主審 副審	〃	〃	〃	三段以上	B級取得後 3年以上の経験
B	×	×	副審	〃	〃	監査 主審 副審	二段以上	C級取得後 2年以上の経験
C	×	×	×	×	×	監査 主審 副審	初段以上	D級取得後 1年以上の経験
D	×	×	×	×	×	副審	1級以上	―

審判組み合わせ表の例

全日本空道体力別・シニア(2017/5/27)審判組み合わせ

	所属		氏名	ライセンス	
1	盛岡支部/運営委員長	コザキカズヒコ	狐崎一彦	S	監査役A
2	新潟支部/運営委員長	ヤマダリイチロウ	山田利一郎	S	監査役A
3	日進支部/運営委員長	カミヤマノブヒコ	神山信彦	S	監査役B
4	石巻支部	ミウラエツオ	三浦悦夫	S	監査役B
5	四日市支部	オガワヒデキ	小川英樹	S	主審A
6	長岡支部	エンドウスグル	遠藤　英	S	主審B
7	仙南支部	サトウシゲキ	佐藤繁樹	S	主審A
8	東北本部	ｺﾉﾈﾝｺ・ｱﾚｸｾｲ	ｺﾉﾈﾝｺ・ｱﾚｸｾｲ	S	主審B
9	名張支部	ナカニシアキヒコ	中西明彦	S	主審A
10	行徳支部	カトウキヨタカ	加藤清尚	A	主審B
11	岸和田支部/運営委員長	シナノケイジ	品野圭司	A	主審A
12	帯広支部/運営委員長	トビナガコウジ	飛永耕治	A	主審B
13	湘南支部・横須賀支部・横須賀教室	モリナオキ	森　直樹	A(受験)	主審A
14	横須賀支部	ユカワエツジ	湯川悦司	A(受験)	主審B
15	筑紫野支部/運営委員長	マツオタケシ	松尾剛	A	主審A
16	新宿支部	サノノリアキ	佐野敏明	A	主審B
17	木町・塩釜支部	アツミサトシ	熱海　智	A	副審A
18	吉祥寺支部	イイムラケンイチ	飯村健一	A	副審B
19	成田支部	イトウノリオ	伊藤紀夫	A	副審A
20	新潟支部	タナカタカシ	田中孝	A	副審B
21	渋谷支部	ハギニワヒデノリ	萩庭英典	A	副審A
22	横浜北支部	アオキタダユキ	青木伊之	A	副審B
23	多賀城同好会	ナカガワヒロユキ	中川博之	A	副審A
24	草加支部	ノトヤヨシキ	能登谷佳樹	A	副審B
25	三沢・弘前市支部・青森市同好会	イガラシユウジ	五十嵐祐司	A	副審A
26	秋田支部	コマツヒロユキ	小松洋之	A	副審B
27	中部本部	テラゾノシンイチ	寺園紳一	A	副審A
28	安城同好会	ナカニシヒロユキ	中西博之	A	副審B
29	西尾支部	エナミヒロユキ	榎並博幸	A	副審A
30	役員・委員	ﾏﾂﾊﾞﾗﾘｭｳｲﾁﾛｳ	松原隆一郎	A	副審B
31	大阪南支部	ニシデタロウ	西出太郎	A	副審A
32	浜松支部	コデラヒデキ	小寺英樹	A	副審B
33	日進支部	カミヤマアユミ	神山歩未	A	副審A
34	仙台東支部	タケヤマタクミ	武山卓己	B	副審B
35	札幌南支部	タナカシュンスケ	田中俊輔	B	副審A

Aコート　（主審と副主審は、半数の試合終了後に交代）

番号	主審／副主審		副審			監査役	予備審判
1～6	小川	品野	熱海	伊藤	萩庭	狐崎	
7～12	佐藤	森	榎波	中川	神山（歩）	山田	
13～18	中西(明)	松尾	寺園	西出	五十嵐	狐崎	
19～23	小川	佐藤	田中(俊)	熱海	伊藤	山田	
24～28	中西(明)	森	萩庭	榎波	神山（歩）	狐崎	
29～33	小川	松尾	中川	寺園	神山（歩）	山田	
34～38	佐藤	品野	西出	五十嵐	田中(俊)	狐崎	
39～43	中西(明)	品野	熱海	伊藤	萩庭	山田	
44～47	佐藤	松尾	榎波	中川	神山（歩）	狐崎	
48～51	小川	森	寺園	西出	五十嵐	山田	

※必要に応じて、事前に監査役と主審に申し出の上、副審と予備審判員との間で交代可

Bコート　（主審と副主審は、半数の試合終了後に交代）

番号	主審／副主審		副審			監査役	予備審判
1～6	遠藤	飛永	飯村	田中(孝)	青木	神山	
7～12	コノネンコ	湯川	能登谷	小松	中西(博)	三浦	
13～17	加藤	佐野	松原	小寺	武山	神山	
18～22	遠藤	コノネンコ	飯村	田中(孝)	青木	三浦	
23～27	飛永	佐野	能登谷	小松	中西(博)	神山	
28～32	加藤	湯川	松原	小寺	武山	三浦	
33～37	遠藤	佐野	飯村	田中(孝)	青木	神山	
38～41	コノネンコ	湯川	能登谷	小松	中西(博)	三浦	
42～45	加藤	遠藤	松原	小寺	武山	神山	
46～49	飛永	コノネンコ	飯村	田中(孝)	青木	三浦	

※必要に応じて、事前に監査役と主審に申し出の上、副審と予備審判員との間で交代可

決勝戦（Aコート。主審と副主審は、半数の試合終了後に交代）

番号	主審	副主審	副審			監査役
1～4	中西(明)	遠藤	松尾	佐野	中川	狐崎
5～8	コノネンコ	加藤	飛永	湯川	神山（歩）	山田
9～11	小川	佐藤	品野	森	能登谷	神山

15. タイムテーブル

試合の時間を次のように見込んで、大会のタイムテーブルを作成する。

- 一般男子決勝以外：6 分 30 秒
- 一般男子決勝： 10 分
- 一般女子決勝以外：4 分 30 秒
- 一般女子決勝：7 分
- U19 男子：5 分 30 秒
- U19 女子：4 分
- U16：4 分
- U13：3 分

算定根拠は以下の表の通り。

	U13	U16	U18 男子	U18 女子	一般男子決勝以外	一般男子決勝	一般女子決勝以外	一般女子決勝
本戦	1 分 30 秒	2 分	3 分	2 分	3 分	3 分	3 分	3 分
インターバル	30 秒	30 秒	30 秒	30 秒	30 秒	30 秒	30 秒	30 秒
延長	1 分	1 分 30 秒	2 分	1 分 30 秒	3 分	3 分	3 分	3 分
インターバル	×	×	×	×	×	30 秒	×	30 秒
再延長	×	×	×	×	×	3 分	×	3 分
トータル	3 分	4 分	5 分 30 秒	4 分	6 分 30 秒	10 分	6 分 30 秒	10 分

16. その他

試合中の出血等による治療で試合が２分半以上中断される場合（＝失格）のほか、選手の失禁(尿・便)、嘔吐が明確となった場合、当該選手は『試合続行不能による負け』とする。

また、メガネは不可だがコントクトレンズやスポーツ用ゴーグルの着用は可とするものの、それらの不具合によって試合中断が生じた場合は遅延行為とみなされ、即「警告」。以降３０ 秒経過後に「反則１」、４０秒経過後に「反則２」となり、５０秒経過で「失格」となる。

Ⅱ．地区大会等における特別ルール

1. 試合ルール

- 試合区分は以下の通りとし、それぞれで身体指数を考慮分別する。
  - 一般部（男/女）：空道ルール、格闘ルール、基本ルール
    基本ルール：(パンチと蹴りのみ)
    格闘ルール：(基本ルールに肘、頭突き、投げを加える)
    空道ルール：(格闘ルールに寝技を加える)
  - シニア（35 歳以上、男/女）：空道ルール、格闘ルール、基本ルール
  - U18（男/女）
  - U16（男/女）
  - U14（男/女　幼年～小学生、投げの有無）

  ※異なる帯色どうしの対戦であっても、ルールはエントリーしたカテゴリーによって行う。
- 全日本選手権の地区予選については本戦と同じルール、時間で行うが、ダメージの蓄積を考慮し 1 ダウン（有効相当）で試合終了とする（効果 2 以上の累積は可)。また、ポイントが３となった時点で試合終了とする。
- 交流試合については全てのカテゴリーにおいて１ダウン（有効相当）で試合終了とする（効果２以上の累積は可)。また、ポイントが３となった時点で試合終了とする。
- 交流試合におけるU14 については、大会規模、年齢層や男女の多寡に応じ、投げの有り無しや掴み有り無しなど、更に細かくカテゴリーを分け試合時間を変更するなど、大会独自のローカルルールの適用を可とする。
- ジュニア以外の交流試合およびシニアクラスの試合時間、掴み時間、投げ・寝技の有無は以下のとおりとする。
  - 一般空道ルールの部
    男子：3 分、女子：2 分　　掴み：10 秒　　投げ有り、寝技２回まで
  - 一般格闘ルールの部
    男子：3 分、女子：2 分　　掴み：10 秒　　投げ有り、寝技無し
  - 一般基本ルールの部
    男子：3 分、女子：2 分　　掴み：5 秒　　投げ無し、寝技無し
  - シニア空道ルールの部
    男女とも：2 分　　掴み：10 秒　　投げ有り、寝技１回まで
  - シニア格闘ルールの部
    男女とも：2 分　　掴み：10 秒　　投げ有り、寝技無し
  - シニア基本ルールの部
    男女とも：2 分　　掴み：5 秒　　投げ無し、寝技無し
- 一般、シニア、ジュニアともに、決勝戦を含めて自動延長はなしとする。
  ※シニアとジュニアは、全日本大会決勝戦においても、自動延長はなしとする。
- 一般、シニア、ジュニアともに、決勝戦以外は安全性に配慮し、なるべく本戦決着となるよう配慮する。

2. 試合場

- 基本的には「大会規則」に準じるが、大会会場の広さに応じて縮小した試合場で実施することも可とする。

3. 審判団

- 基本的には主審、副主審、副審３名、および監査役の６名体制とするが、参加する審判員の人数に応じて３名体制、または３名に監査役を加えた４名体制も可とする。
- ただし、特にジュニアの試合においては、金的への違反行為の判断を補佐できる監査役を置くことが望ましい。

4. 計量

- ペナルティは全日本大会と同じ。
  身体指数が申告数値より
  - １未満高い場合は「警告」
  - １以上２未満高い場合は「反則１」（相手に１ポイント）
  - ２以上３未満高い場合は「反則２」（相手に２ポイント）
  - ３以上高い場合は「反則３」として「失格」

5. サポーターやテーピングの使用許可

- 本部席において使用許可を行うので、選手は開会式前に自己申告する。
- 男子シニアにおいて、年齢が 60 歳以上の場合は、ボディプロテクターの着用を許可することもある。この場合は、試合へのエントリーの際に、支部長を通して大会主催者および総本部からの許可を得ること。

6. 脛サポーター

- 予選：脛サポーターの着用不可
- 交流試合：基本ルールでは脛サポーター着用を認める
  ※着用を義務づけるものではなく、着用しないという選択が可。着用する場合は指定のものを使用のこと。

7. 選手係

交流試合では青道着の着用は義務ではないので、必要に応じて紐の着用チェックと回収を行う。
全日本大会と同等のチェックは行わない。道着の袖、マスクの紐等の確認は、主審が実施する。

8. 時計係

- 各試合の開始前に、大会ドクターが所定の位置に着いていることを確認し、もし不在の場合は、その旨を監査役を通して主審に伝え、試合の開始を停止する。したがって、その間は計時を開始しない。
- 掴みについては主審が秒数を数えることとし、試合時間と寝技の時間のみの経時とする。
- 交流試合については、一般男子は本戦３分、一般女子は本戦２分とする。
- その他、交流試合において計時関連で異なる部分は以下の通り。
  - 一般基本ルール、シニア基本ルールは、掴みは５秒以内

9. アナウンス係

- 交流試合については以下のカテゴリーでルールが違うので注意を要する。
  - 一般格闘ルール、シニア格闘ルールは、寝技は行わない
  - 一般基本ルール、シニア基本ルールは、掴みは５秒以内
    ※防御のためのクリンチや、頭部をロックしての膝蹴りは可。その他の加撃は不可。

● 開会式、閉会式については以下の通り進行する。

開会式　（整列は主催支部関係者が促す）

（選手が整列したら）

「それではこれより 「(大会名)」 の開会式を行います。

国旗掲揚、国歌斉唱。会場の皆様ご起立の上、国旗にご注目下さい。」

～国歌斉唱終わり～

「ありがとうございました。

続きまして開会宣言。○○○（肩書）　○○○師範（師範代・支部長)、お願い申し上げます。」

～○○○支部長の開会宣言終わり～

「ありがとうございました。

続きまして審判長挨拶。大会審判長・○○○（肩書）　○○○（ふりがな）様、お願い申し上げます。」

～審判長の挨拶終わり～

「ありがとうございました。

続きまして、選手宣誓。○○○○○大会　○○の部優勝　○○支部（道場・同好会）　○○○○○選手。」

～選手宣誓終わり～

「続きましてルール説明。○○○（肩書）　○○○お願い申し上げます。」

～ルール説明終わり～

「では、ここで大会運営本部より連絡致します。」

～伝達終わり～

「これで開会式を終わります。選手の皆さんは回れ右をして退場して下さい。」

「すぐに試合を開始致しますので、審判、選手の皆さんは準備をお願い致します。」

閉会式　（整列は主催支部関係者が促す）

（選手が整列したら）

「それではこれより閉会式を行います。」

成績発表（記録用の結果表参照）

U11、13 → U16 → U19 → シニア（基本・格闘・空道）→一般部（男・女／基本・格闘・空道）

（支部賞品提供）

「今大会にあたり、○○、○×、○△、○□。 以上の支部、道場、同好会より賞品をご提供頂いております。」

（メモを貰っておく）

「大会講評。審判長お願い申し上げます。」

「閉会宣言。○○○（肩書）　○○○師範（師範代・支部長)、お願い申し上げます。」

「この後、記念撮影を行います。入賞した選手の皆さんは、トロフィー、盾を持ってそのままお待ち下さい。その他の選手は回れ右をして退場してください。」

「尚、出場選手、応援の塾生などでお手すきの方は撤収作業をお手伝い頂きますようお願いします。」

10. 記録係

試合開始前に、以下の情報を、監査役を通して主審に伝える。（全日本大会と同じ）

- 各選手の前試合までの累積の被取得ポイント数とその内訳（技有り、有効など）

  ※ただし地区大会においては、「１．試合ルール」の通り有効１ダウン（有効相当）で試合終了とするとしているので、審判団の判断に用いられる情報にはならない。

- 身体指数差（20 以上の差がある場合）

Ⅲ．大会出場誓約書

全日本大会、地区大会に関わらず、大会への出場希望者には誓約書の提出を求める。

※誓約書（表明・承諾書）を「別紙」として添付

以上